

Hyper S-Stage α ボアアップキット 81cc 取扱説明書

(ボア径 : 48.5mm ストローク : 44mm(ノーマル) 排気量 81.2cc)

製品番号 01-05-5117

適応車種及び	Today (AF61-1000001 ~)
フレーム番号	Dio (AF62-1000001 ~)

この度は、弊社製品をお買い上げ頂きまして有り難うございます。

使用の際には下記事項を遵守頂きますようお願い致します。取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。

万一お気付きの点がございましたら、お買い上げ頂いた販売店にご相談下さい。

◎イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合がありますので、予めご了承下さい。

使用燃料についてのご注意

当製品は、ノーマルに比べて高圧縮比となるように設定しておりますので、燃料は必ずハイオクタン価ガソリンを使用して下さい。レギュラーガソリンを使用すると、異常燃焼を起こして本来の性能を発揮しない上に、ピストンが壊れて重大な故障を起こす可能性があります。キット取り付け前に燃料タンクに残っていたガソリンにも注意して下さい。レギュラーガソリンが残っている場合は、必ずハイオクタン価ガソリンと入れ替えて下さい。

スパークプラグについてのご注意

スパークプラグは必ず、CR8HSA (NGK) または、U24FSR-U (DENSO) に交換して下さい。その後、スパークプラグ電極部の焼け具合により番数を決定して下さい。

☆ご使用前に必ずお読み下さい☆

◎取扱説明書に書かれている指示を無視した使用により事故や損害が発生した場合、弊社は賠償の責を一切負いかねます。

◎当製品を取り付け使用し、当製品以外の部品に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どのような事柄でも一切負いかねます。

◎当製品は、上記適応車種、フレーム番号の車両専用部品です。他の車両には取り付け出来ませんのでご注意下さい。

◎当製品の取り付けには上記適応車種にあった純正サービスマニュアルを参照し、確実に作業を行って下さい。

◎取り付けの際には適切な工具等を準備し、取付け要領に従って十分注意して作業を行って下さい。尚、この取扱説明書や純正サービスマニュアルは基本的な技能や知識を持った方を対象としております。取り付け等の経験の無い方、工具等の準備が不十分な方は技術的信用のある専門店へご依頼されることをお勧め致します。

◎当取扱説明書は Today を主体としております。

◎当製品を加工等された場合は、保証の対象にはなりません。

◎他社製品との組み合わせのお問い合わせはご遠慮下さい。

◎ボルト、ナット、ノックピン、パッキンの一部は再使用しますが、摩耗や損傷が激しいものは再使用せず、必ず新品のものをご使用下さい。

◎ウエイトローラー、スライダー、Vベルトは消耗部品です。ムーバブルドライブフェイスやランププレートも含めて、走行距離 1,000km 以下ごとに必ず点検し、摩耗や損傷が激しいものは必ず新品部品と交換して下さい。又、エンジン仕様や使用状況によって消耗の度合いが変わりますのでご注意下さい。

注意 この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害が想定される内容を示しています。

■一般公道では、法定速度を守り遵法運転を心掛けて下さい。

(法定速度を超える速度で走行した場合、運転者は道路交通法、速度超過違反で罰せられます。)

■作業を行う際は、必ず冷間時(エンジン及びマフラーが冷えている時)に行ってください。(火傷の原因となります。)

■作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。(部品の破損、ケガの原因となります。)

■規定トルクは、必ずトルクレンチを使用し、確実に作業を行って下さい。(ボルトおよびナットの破損、脱落の原因となります。)

■製品およびフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、手を保護して作業を行って下さい。(ケガの原因となります。)

■走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みがないかを確認し緩みが有れば規定トルクで確実に増し締めを行って下さい。

(部品の脱落の原因となります。)

■ガスケット、パッキン類は、必ず新品部品を使用して下さい。また、再使用する部品については、よく点検し摩耗や損傷がある場合は、必ず新品部品と交換して下さい。

警告 この表示を無視した取り扱いをすると人が死亡、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

■エンジンを回転させる場合は、必ず換気の良い場所で行って下さい。密閉した様な場所では、エンジンを始動させないで下さい。

(一酸化炭素中毒になる恐れがあります。)

■走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。(事故につながる恐れがあります。)

■作業を行う際は、水平な場所で車両を安定させ安全に作業を行って下さい。(作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。)

■点検、整備は、取扱説明書又は、サービスマニュアル等の点検方法、要領を守り、正しく行って下さい。

(不適当な点検整備は、事故につながる恐れがあります。)

■点検、整備等を行った際、損傷部品が見つければ、その部品を再使用する事は避け損傷部品の交換を行って下さい。(事故につながる恐れがあります。)

◎性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で製品および価格は予告無く変更されます。予めご了承下さい。

◎クレームについては、材料および加工に欠陥があると認められた製品に対してのみ、お買い上げ後 1 ヶ月以内を限度として、修理又は交換させて頂きます。

但し、正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。

なお、レース等でご使用の場合はいかなる場合もクレームは一切お受け致しません。予めご了承下さい。

◎この取扱説明書は、当製品を破棄されるまで保管下さいます様お願い致します。

株式会社 スペシャルパーツ 武川

〒584-0069 大阪府富田林市錦織東 3-5-16

TEL:0721-25-1357 FAX:0721-24-5059 URL <http://www.takegawa.co.jp>

○ネジについて

◇普通、ボルトとナットは反時計方向に回すと緩み、時計方向に回すと締まります。

◇ネジを締める場合は最初から工具を使用せず、まずは指で締まる場所まで締めましょう。

◇ネジを緩めるということは、締まっている状態から3～4回転反時計方向に回すことをいい、取り外すということはネジが取れるまで反時計方向に回すことをいいます。

◇ネジを締めるということは、ネジを緩まないように締めることをいいます。その目安をボルトごとに、折れない・緩まない数値で表したのが規定トルクです。

◇トルクレンチを用意することが出来ない方は折れない・緩まない力でネジを締められるのであれば試して下さい。但し、弊社では責任を負いません。トルクレンチが無くてもどのぐらいの力で締めるかと折れるのか、緩むのかは経験と勘でしか補えません。

◇工具を正しく使用しない場合、ボルト・ナット等のかかり部分が破損する場合があります。

製品内容



番号	部品名	数量	リペア品番	番号	部品名	数量	リペア品番
1	ピストン	1	13101-GFC-T10	11	メインジェット #80	1	00-03-0040
2	ピストンリングセット	1	13011-GFC-T00	12	キャップ 7mm	1	00-03-0218
3	ピストンピン	1	13111-GFC-T00	13	キャップ 9.8mm	1	(各 1 ケ入り)
4	ピストンピンサークリップ	2	00-01-0363 (10 ケ入り)	14	ドライブシャフト	1	23411-GFC-T20
5	シリンダー	1	01-01-030	15	カウンターギア	1	23422-GFC-T20
6	シリンダーヘッドガスケット	1	00-01-0033	16	トランスミッションカバーガスケット	1	21395-GFC-T00
7	シリンダーガスケット	1	12191-GFC-T00	17	ムーバブルドライブフェース	1	02-01-7022
8	カムシャフト	1	01-08-047	18	ランプレート	1	(ブリーキット)
9	スパークプラグ	1	NGK-CR8HSA	19	スライドピース	3	00-02-0422 (3 ケ入り)
10	キャブレター ASSY.	1	03-03-0301	20	原付 2 種マークセット	1	

※リペアパーツは必ずリペア品番にてご発注下さい。品番発注でない場合、受注出来ない場合もあります。予めご了承下さい。

尚、単品出荷出来ない部品もありますので、その場合はセット品番にてご注文下さいませお願い致します。

○取り付けに使用する工具等



番号	名称	番号	名称
1	トルクレンチ	12	プラスドライバー大
2	ラチェットレンチ	13	プラスドライバー中
3	ソケット 8mm	14	マイナスドライバー中
4	ソケット 10mm	15	マイナスドライバー極細先
5	ソケット 12mm	16	プラスチックハンマー
6	プラグソケット 16mm	17	ラジオペンチ
7	エクステンションバー 中	18	スナッピングプライヤー穴用
8	エクステンションバー 小	19	シクネスゲージ
9	メガネレンチ 9mm	20	スクレーパーまたはカッターナイフ
10	メガネレンチ 14mm		ウエス
11	スパナレンチ 10-12mm		エンジンオイル

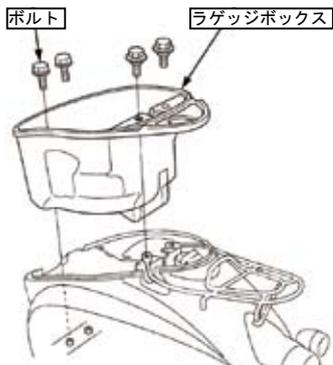
※水平で安全な場所でスタンドを立て、車両を安定させる。これからの作業は必ず冷間時(エンジンおよびマフラーが冷えている時)に行う事。

●取り外し

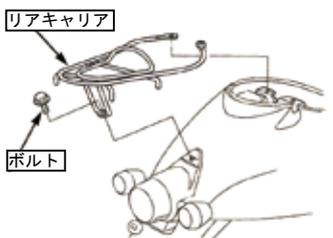
- ★ホコリやオイルなどの汚れを取り除いてきれいにしながら各パーツを取り外していくようにする。
- ★取り外したボルトやナットは無くさないように、どの場所を使用するのかわかるように保管する。

ボディカバーの取り外し

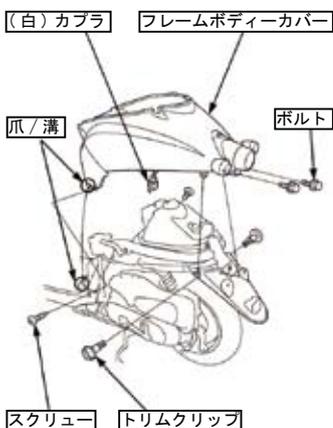
◇メインスイッチキーでシートを開け、ボルト4本を取り外し、ラゲッジボックスを取り外す。



◇ボルト1本を取り外し、リアキャリアを取り外す。



◇フロアパネルとボディカバーを止めているスクリーン2本、リアフェンダーとボディカバーを止めているトリムクリップ2個、ボルト2本を取り外す。



※トリムクリップは、中央部をドライバー等で押し、ロックを外してから取り外す。

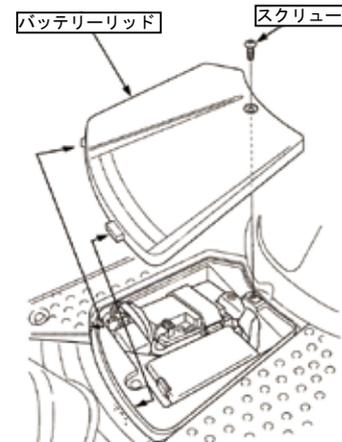


◇ボディカバー後部を引き上げ前部の爪3箇所をフロアパネルの溝から外してボディカバーを車体から取り外す。この際ボディカバーにつながっている配線の白色カプラの接続を外す。

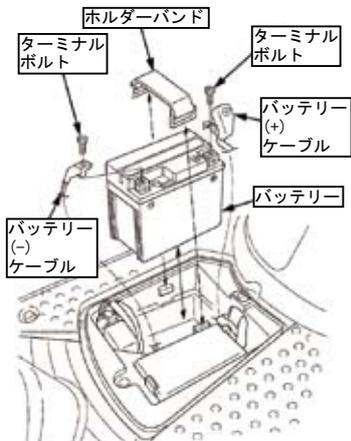


バッテリーの取り外し

◇スクリーン1本を取り外し、バッテリーリッドの後を持ち上げながら後ろへ引いて取り外す。

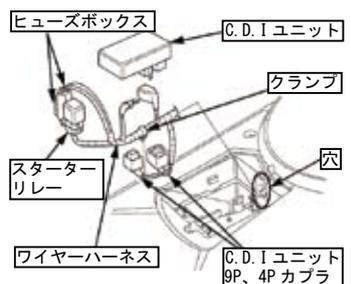


◇メインスイッチがOFFか確認する。バッテリーマイナス側のボルトを取り外し、マイナスケーブルを取り外す。バッテリープラス側のボルトを取り外し、プラスケーブルを取り外す。ホルダーバンドを取り外し、バッテリーを取り外す。



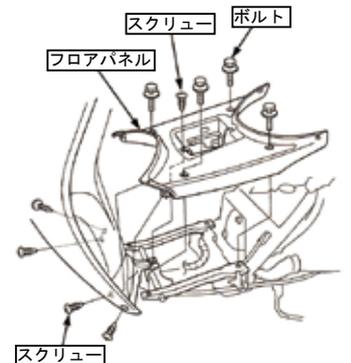
フロアパネルの取り外し

◇C.D.Iユニットやスターターリレー、ヒューズボックス、ワイヤーハーネスをフロアパネルから取り外し、ワイヤーハーネスのクランプをフロアパネルから取り外す。



◇C.D.Iユニット、スターターリレーのカプラの接続を外し、ワイヤーハーネスを真っ直ぐに伸ばしておく。

◇フレームとフロアパネルを止めているボルト4本とスクリーン1本、レッグシールドとフロアパネルを止めているスクリーン4本を取り外し、フロアパネルをフレームからずらす。



◇ワイヤーハーネス、ヒューズボックスをフロアパネルの穴に通し、フロアパネルを取り外す。

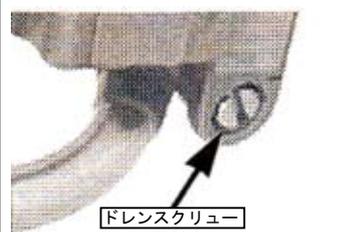
二次空気供給パイプの取り外し

◇シリンダーヘッドに付いている二次空気供給パイプのボルト2本を取り外す。



キャブレターの取り外し

◇ドレンスクリューを緩め、キャブレター内のガソリンを抜き取る。



◇フューエルタンクの負圧コックからフューエルチューブの接続を外す。



◇バイスターターの灰色カブラ、バキュームピストンホース、エアリードチューブの接続をキャブレターから外す。フューエルチューブをコネクティングチューブのクランプから外す。



◇アジャストナットを緩め、スロットルケーブルをステアから外し、スロットルドラムからスロットルケーブルの接続を外す。



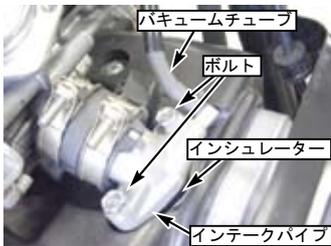
◇キャブレターとコネクティングチューブを止めているチューブバンドのスクリューを緩める。

コネクティングチューブ



バンドスクリュー

◇インテークパイプのパキュームチューブの接続を外し、シリンダーヘッドとインテークパイプを止めているボルト2本を取り外し、キャブレター、インテークパイプ、インシュレーターを取り外す。



パキュームチューブ

ボルト

インシュレーター

インテークパイプ

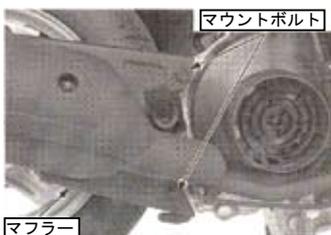
エキゾーストマフラーの取り外し

◇シリンダーヘッドとエキゾーストパイプを止めているナット2個を取り外す。



ジョイントナット

◇マフラステー部のボルト2本を取り外し、マフラーを取り外す。

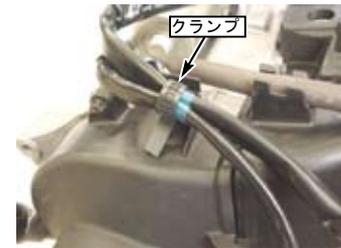


マウントボルト

マフラー

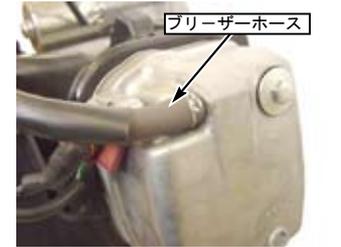
ファンカバーとシュラウドの取り外し

◇ファンカバーに付いている配線のクランプを取り外す。



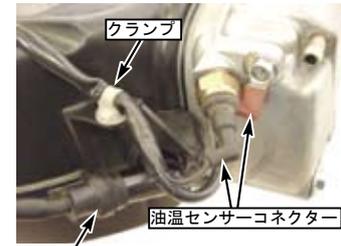
クランプ

◇シリンダーヘッドカバーからブリーザーホースを取り外す。



ブリーザーホース

◇シリンダーヘッドから、油温センサーコネクターの接続を外し、シュラウドから配線のクランプを外す。プラグキャップを引っ張って外す。必ずキャップ部分を持って引っ張る事。



クランプ

油温センサーコネクター

プラグキャップ

◇シュラウドのクランプからブリーザーホースと、配線を外す。



配線

ブリーザーホース

◇ファンカバーとシュラウドを止めているスクリュー2本とファンカバーとクランクケースを止めているボルト2本を取り外し、ファンカバーを取り外す。

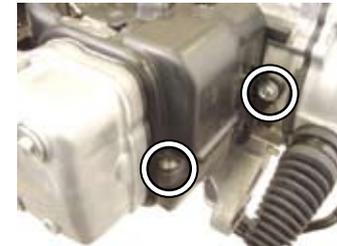


ボルト

スクリュー

ファンカバー

◇上下のシュラウドを止めているスクリュー2本とシュラウドをクランクケースに止めているボルト1本を取り外す。



◇左右の爪を外し、シュラウドを外す。

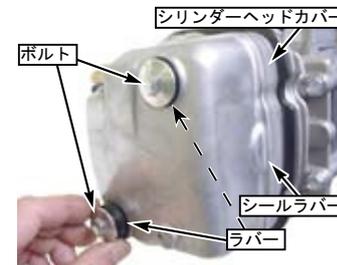
スパークプラグの取り外し

◇プラグキャップを引っ張って外す。必ずキャップ部分を持って引っ張る事。
◇スパークプラグを取り外す。



シリンダーヘッドカバーの取り外し

◇シリンダーヘッドカバーのボルト2本を取り外し、ラバー2個、シリンダーヘッドカバーを取り外す。



シリンダーヘッドカバー

ボルト

シールラバー

ラバー

カムプロケットの取り外し

◇フライホイールを時計方向に回し、フライホイールの“T”マークをクランクケースの合わせマークに合わせ、カムプロケットのけがき線がシリンダーヘッドの上面と平行になり、“1”が下側（排気側）、“2”が上側（吸気側）になるようにする。



合わせマーク

“T”マーク



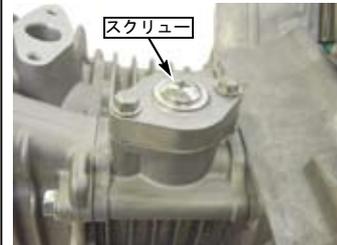
けがき線

カムスプロケット シリンダーヘッド上面

◇フライホイールを保持し、カムスプロケットのボルト2本を取り外す。



◇シリンダーのカムチェーンテンショナーのスクリューを取り外す。

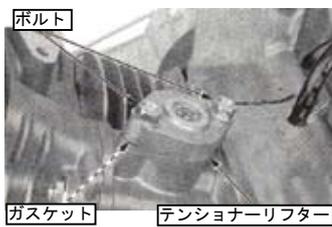


スクリュー

◇カムチェーンテンショナーのストッパーを時計方向に一杯まで回し、ロックさせる。

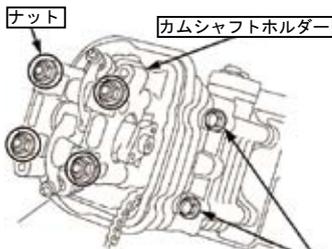


- ◇カムプロケットをカムシャフトから抜き、カムチェーンから取り外す。
- ◇2本のボルトを取り外し、カムチェーンテンショナーを取り外す。ガスケットは再使用するので取り外しておく。



シリンダーヘッドの取り外し

- ◇シリンダーヘッド横のボルト2本を取り外す。カムシャフトホルダーのナット4個を対角に数回に分けて緩め、取り外す。



- ◇カムシャフトホルダーを取り外し、シリンダーヘッドを取り外す。(かたい時はプラスチックハンマーで軽くたたき、取り外す。)



- ◇ノックピン4個は、再使用するので取り外しておく。

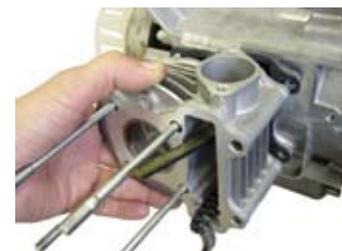
シリンダーの取り外し

- ◇シリンダーからカムチェーンガイドを取り外す。



カムチェーンガイド

- ◇シリンダーを引っ張って取り外す。(かたい時はプラスチックハンマーで軽くたたき、取り外す。)



- ◇ノックピン2個は再使用するので取り外しておく。
- ◇シリンダーが外れた後、ゴミや部品が入らないようにきれいなウエス等をクランクケースのシリンダーホールとカムチェーンホールに詰め込む。



- ◇ガスケットがクランクケースに残った場合は、スクレーパーやカッターナイフ等できれいに取り除いておく。
- ★キズをつけないように注意。

ピストンの取り外し

- ◇ピストンピンサークリップの片側を取り外す。
- ★ピストンピン穴の切り欠き部を利用してこじるようにすると外れやすい。



- ◇サークリップを取り外した方へピストンピンをドライバー等で押して外し、ピストンを外す。

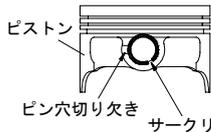


●S-Stage KITの取り付け ピストンの取り付け

- ◇ピストンのピン穴の片側に付属のピストンピンサークリップを取り付ける。

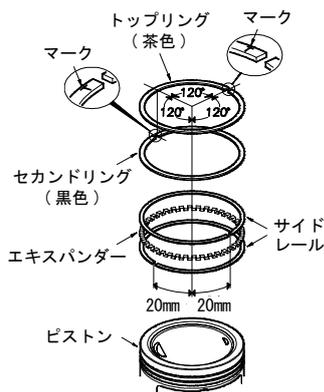


- ※ピストンピンサークリップの合い口は切り欠き部を避けて取り付けする事。



- ※ピストンにキズを付けないように注意。

- ※取り付け中にピストンピンサークリップが外れて飛んでしまう恐れがあるので、慎重に取り付ける事。
- ◇図を参考にしてピストンリングを取り付ける。エキスパンダー、サイドレール、セカンドリングの順に取り付ける。



- ◇ピストンピン、ピストンピン穴、コンロッドのピストンピン穴にきれいなエンジンオイルを塗布する。



- ◇ピストン頂面の“→”マークが、下(排気側)に向くようにピストンをコンロッドに取り付ける。



- ◇付属のピストンピンサークリップをもう片方のピン穴に取り付ける。



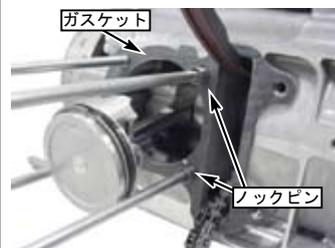
シリンダーの取り付け

- ◇詰めていたウエスを取り外す。
- ◇カムチェーンホールを覗き、カムチェーンがクランクシャフトの sprocket から外れていないか確認する。



- ◇クランクケースとシリンダーの合せ面をシンナー等で脱脂し、きれいにする。

- ◇ノックピン2個とシリンダーガスケットをクランクケースに取り付ける。



ガスケット

ノックピン

- ◇シリンダーの内側にきれいなエンジンオイルを塗布し、均等に薄く塗り広げる。



◇ピストンの全周面と、ピストンリングにきれいなエンジンオイルを塗布する。

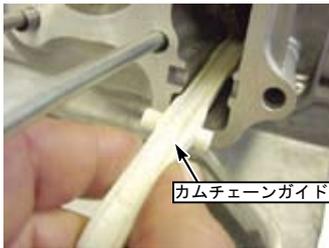


◇シリンダーをピストンリングの合い口の位置がずれないように指で少しずつピストンにはめていき、シリンダーをクランクケースにはめ込む。

★シリンダーがピストンにはまったら、カムチェーンをシリンダーに通しておく。

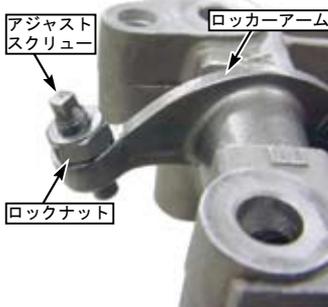


◇カムチェーンガイドをシリンダーの溝にしっかりとはめ込む。



カムシャフトの取り付け

◇ロッカーアームのアジャストスクリューロックナットを緩め、アジャストスクリューを緩めておく。

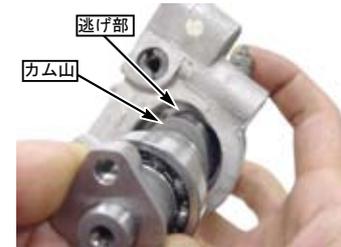


◇スナップリングをカムシャフトホルダーから取り外す。



◇カムシャフトホルダーにはカム山の逃げがあるのでカムシャフトを回しながら取り外す。

★無理に引っ張って取り外さない事。

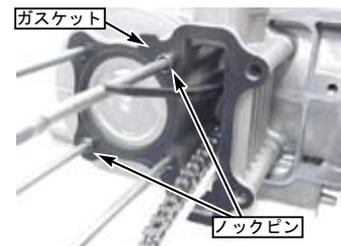


◇キットのカムシャフトをカムシャフトホルダーに同じように回しながら取り付ける。

◇カムシャフトホルダーにスナップリングを取り付ける。

シリンダーヘッドの取り付け

◇シリンダーとシリンダーヘッドの合せ面をシンナー等で脱脂し、ノックピン2個とシリンダーヘッドガスケットをシリンダーに取り付ける。



◇カムチェーンをシリンダーヘッドに通し、シリンダーヘッドを取り付ける。



◇シリンダーヘッドにノックピン2個を取り付け、カムシャフトホルダーを取り付ける。

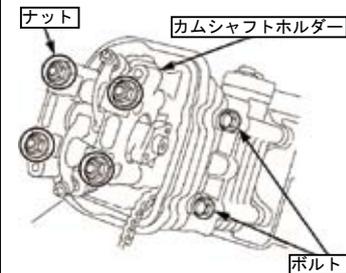
※この時、カムシャフトはカム山をシリンダーヘッド側にして取り付ける。

※カムシャフトホルダーは“EX”の文字が下側（排気側）になるように取り付ける。



◇ナット4個、ボルト2本を仮止めておき、先にナットを対角線状になるように数回に分けて締め付ける。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
ナット
トルク：16N・m (1.6kgf・m)
ボルト
トルク：12N・m (1.2kgf・m)

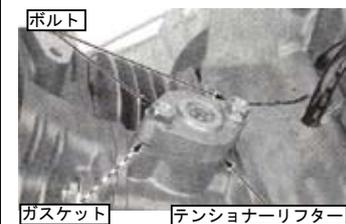


カムプロケットの取り付け

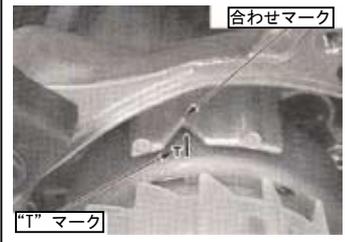
◇カムチェーンテンショナーのプッシュロッドがロックしているか確認する。

◇シリンダーにガスケットとカムチェーンテンショナーを取り付け、2本のボルトを取り付ける。

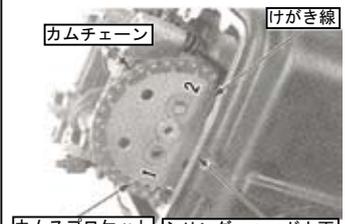
▲注意：必ず規定トルクを守る事。
ボルト
トルク：10N・m (1.0kgf・m)



◇フライホイールの“T”マークがクランクケースの合わせマークに合っているか確認する。



◇カムプロケットのけがき線がシリンダーヘッドの上面と平行になり、“1”が下側（排気側）、“2”が上側（吸気側）になるようにカムチェーンを取り付ける。カムプロケットをカムシャフトにはめ込む。



◇カムプロケットの穴にカムシャフトのネジ穴を合わせ、ボルト2本を取り付ける。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
ボルト
トルク：9N・m (0.9kgf・m)

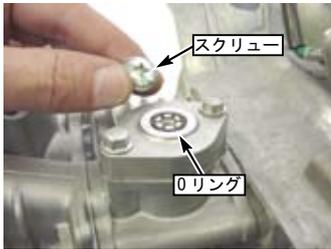


◇カムチェーンテンショナーのストッパーを反時計方向に少し回し、プッシュロッドのロックを解除する。



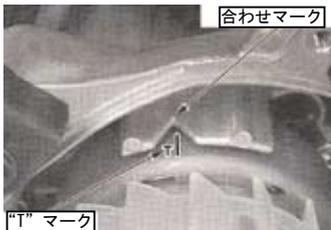
◇カムチェーンテンショナーの溝に0リングが付いているのを確認し、スクリューをカムチェーンテンショナーに取り付ける。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
スクリュー
トルク：4N・m (0.4kgf・m)



バルブクリアランスの調整

◇フライホイールの“1”マークをクランクケースの合わせマークに合わせ、カムスプロケットのけがき線がシリンダーヘッドの上面と平行になり、“1”が下側(排気側)、“2”が上側(吸気側)になっているか確認する。



◇アジャストスクリューとバルブシステムの間に0.1mmのシクネスゲージを差し込み、引き抜く時に少し抵抗があるぐらいに合わせ、アジャストスクリューを固定してナットを締め付ける。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
ナット
トルク：10N・m (1.0kgf・m)



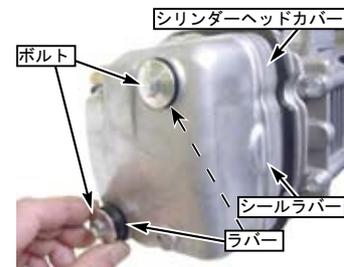
◇フライホイールを時計方向に2回転まわし、バルブ隙間が変化していないか確認する。隙間が変化している場合は再度調整する。この作業を合うまで繰り返す。

シリンダーヘッドカバーの取り付け

◇シリンダーヘッドカバーにシールラバーを取り付け、シリンダーヘッドにラバー2個、ボルト2本で取り付ける。

※ラバーは“UP”マークを上に向けて取り付けする事。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
ボルト
トルク：12N・m (1.2kgf・m)



スパークプラグの取り付け

◇スパークプラグをまず手で締め込む。

◇プラグレンチを用いて締め付ける。

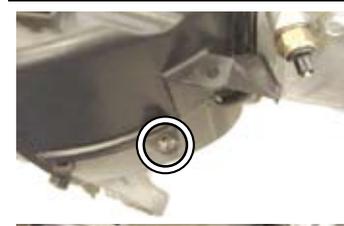
▲注意：必ず規定トルクを守る事。
スパークプラグ
トルク：12N・m (1.2kgf・m)



ファンカバーとシュラウドの取り付け

◇上下のシュラウドをシリンダーヘッドのシールラバーに合わせて取り付け、左右の爪をはめ込む。※ホースや配線を噛み込まない事。
◇スクリュー2本で上下のシュラウドを止め、クランクケースにボルトワッシャ1本で取り付ける。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
スクリュー
トルク：2N・m (0.2kgf・m)
ボルトワッシャ
トルク：7N・m (0.7kgf・m)

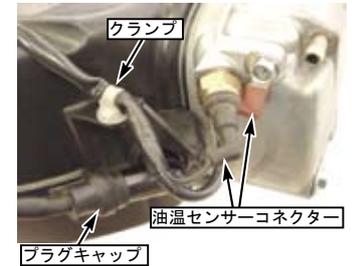


◇ファンカバーをはめ、シュラウドにスクリュー2本で、クランクケースにボルト2本で取り付ける。

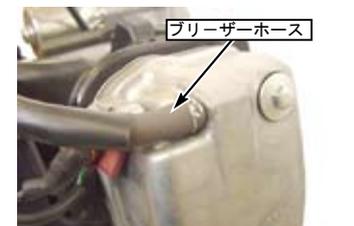
▲注意：必ず規定トルクを守る事。
スクリュー
トルク：2N・m (0.2kgf・m)
ボルトワッシャ
トルク：7N・m (0.7kgf・m)



◇油温センサーコネクターをシリンダーヘッドカバー油温センサー部に接続し、配線のクランプをシュラウドに取り付ける。スパークプラグキャップを取り付ける。

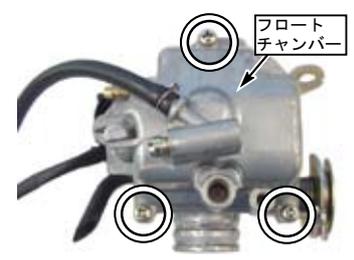


◇ブリーザーホースをシリンダーヘッドカバーに取り付け、油温センサーの配線と共にシュラウドに取り付ける。

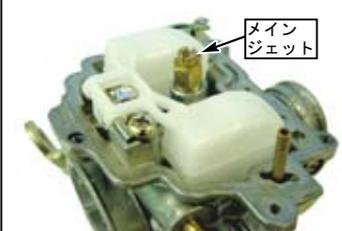


キャブレターの取り付け

◇キットのキャブレターのスクリュー3本を取り外し、フロートチャンバーを取り外す。



◇メインジェットを取り外しキット内のメインジェット#80を取り付ける。※付属していたメインジェットは使用しない。



◇フロートチャンバーを取り付け、スクリュー3本を取り付ける。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
スクリュー
トルク：2.1N・m (0.21kgf・m)

◇ノーマルキャブレターのオートバイスターター部からスクリューを取り外す。



◇オートバイスターターを抜き取る。



◇キットのキャブレターも同様にオートバイスターターを取り外す。※付属していたオートバイスターターは使用しない。



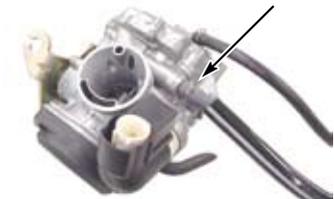
■取り付け要領 ※特に記載の無い細部の取り付け方法や規定トルクにつきましては、純正サービスマニュアルを参照して下さい。

◇ノーマルのオートバイスターターをキットのキャブレターに取り付け、スクリューを取り付ける。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
スクリュー
トルク：2.1N・m (0.21kgf・m)



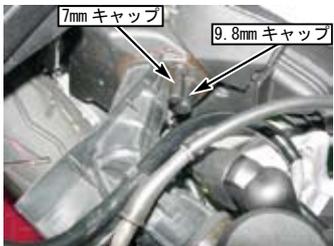
◇ノーマルのキャブレターからフューエルチューブを外し、キットのキャブレターに取り付ける。



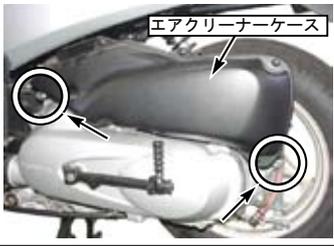
◇エアクリーナーケースからバキュームピストンホースとエアリードチューブを取り外す。



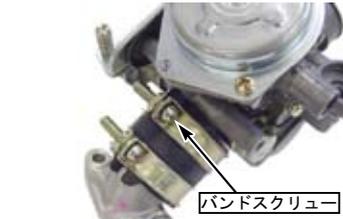
◇取り外した後の口にゴム系接着剤を塗布し、上側にキャップ7mm、下側にキャップ9.8mmを取り付ける。



◇エアクリーナーケースとクランクケースを止めているボルト2本を取り外す。



◇インシュレーターのバンドスクリューを緩め、ノーマルキャブレターを取り外す。



◇キットのキャブレターをインシュレーターに取り付け、バンドスクリューを締め付ける。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
バンドスクリュー
トルク：2N・m (0.2kgf・m)



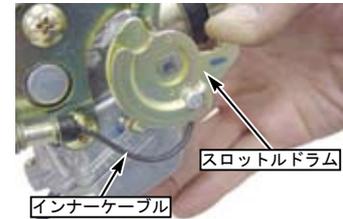
◇スロットルケーブルアジャスト部からラバーとアジャストナットを取り外す。



◇キットのキャブレターのホルダーにスロットルケーブルを取り付け、アジャストナットを取り付ける。ラバーを取り付ける。

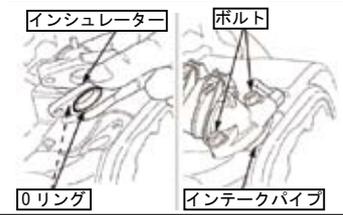


◇キャブレターのスロットルドラムを回し、スロットルケーブルのインナーを取り付ける。



◇インシュレーターの裏表にOリングが付いているのを確認してインテークパイプとシリンダーヘッドの間にはさみ、ボルト2本を取り付ける。

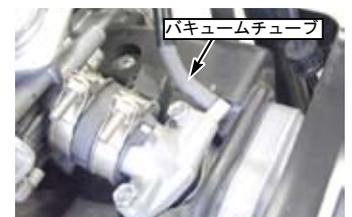
▲注意：必ず規定トルクを守る事。
ボルト
トルク：10N・m (1.0kgf・m)



◇エアクリーナーケースとクランクケースをボルト2本で取り付ける。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
ボルト
トルク：10N・m (1.0kgf・m)

◇バキュームチューブをインテークパイプに接続する。



◇キットのキャブレターはノーマルのものより全長が短いため、コネクティングチューブを若干引き寄せながらキャブレターにはめ込み、チューブバンドを締め付ける。

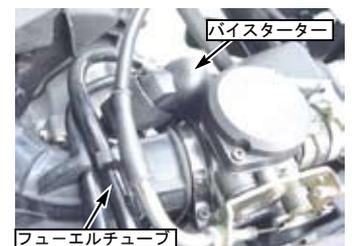
▲注意：必ず規定トルクを守る事。
チューブバンド
トルク：2N・m (0.2kgf・m)



◇フューエルチューブをフューエルタンクの負圧コックに接続する。

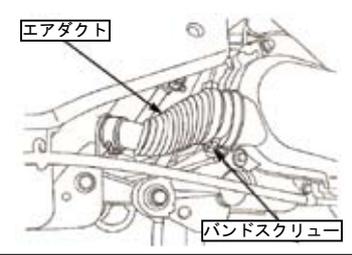


◇バイスターターの灰色カプラを接続し、フューエルチューブをコネクティングチューブのクランプに取り付ける。

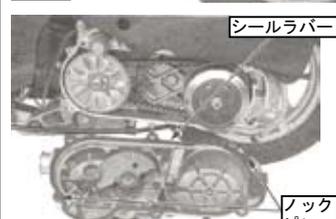
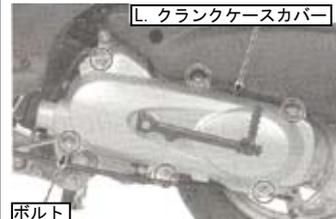


ハイギアの取り付け

◇L. クランクケースカバーにあるエアダクトのバンドスクリューを緩め、ケースカバーからダクトを取り外す。



◇L. クランクケースカバーを固定しているボルト6本を外し、L. クランクケースカバーとシールラバーを取り外す。



◇クラッチセンターホルダーにてドライブプリーフェースを固定し、プリーフェースナットとワッシャを取り外し、ラチェットプレート、ドライブプリーフェースを外す。

▲注意：L. クランクケースの合わせ面を傷つけないように注意する事。



◇ムーバブルドライブフェースを、裏側のランププレートを押さえウエイトローラーが落下しないよう注意しながら、ドライブフェースボスと共に取り外す。

◇ノーマルウエイトローラーを、ムーバブルドライブフェースに取り付ける。

▲注意：ウエイトローラー及びムーバブルドライブフェースに油脂を付着させない事。

◇ランププレートにスライドピースが取り付けられている事を確認し、ムーバブルドライブフェースに取り付けて下さい。

◇ムーバブルドライブフェースにノーマルのドライブフェースボスを取り付け、ランププレートを押さえながらクランクシャフトに取り付けて下さい。

▲注意：ドライブベルトに油脂を付着させない事。

◇ドライブベルトをドライブフェイスボスに通す。

ドライブベルト ドライブフェイスボス



ムーバブルドライブフェイス

◇ドライブプリーフェイス、ラチェットプレート、ワッシャをクランクシャフトに取り付け、クラッチセンターホルダーにてドライブプリーフェイスを固定しながら、プリーフェイスナットを規定トルクにて締め付ける。この時、プリーフェイスナットの座面にエンジンオイルを塗布する。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
プリーフェイスナット
トルク：59N・m (6.0kgf・m)

クラッチセンターホルダー プリーフェイスナット



ワッシャ

ドライブプリーフェイス

◇ユニバーサルホルダーを使用して、クラッチアウターを固定しているナットを外し、クラッチアウターを取り外す。

ユニバーサルホルダー ナット



クラッチアウター

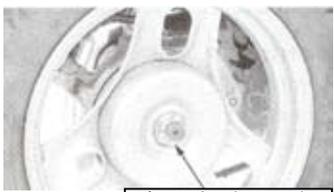
◇ドライブベルトを絞ってクラッチ/ドリブプリー ASSY. とドライブベルトを取り外す。

ドライブベルト



クラッチ/ドリブプリー ASSY.

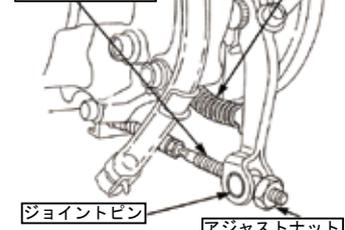
◇リアホイールのアクスルナットとワッシャを外し、リアホイールを取り外す。



アクスルナット、ワッシャ

◇アジャストナットを外し、ブレーキケーブルをジョイントピンから取り外す。

ブレーキケーブル リターンスプリング



ジョイントピン

アジャストナット

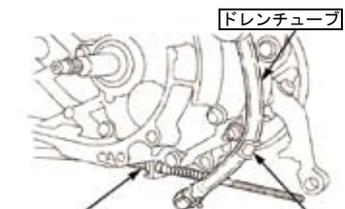
◇トランスミッションケースプリーザーチューブをエアクリーナーケースから取り外す。



プリーザーチューブ

◇クランクケースプリーザードレインチューブをクランプから取り外す。

◇リアブレーキケーブルをトランスミッションケースから取り外す。

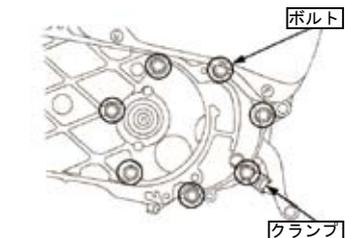


ドレインチューブ

ブレーキケーブル クランプ

◇ミッションケースの下にオイルの受け皿を置く。

◇トランスミッションケースボルト7本とチューブクランプを取り外し、トランスミッションケースを取り外す。



ボルト

クランプ

◇L. クランクケースからロックピン2本とケースガスケットを取り外す。



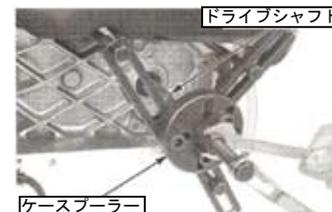
ガスケット

ロックピン

◇L. クランクケースにプーラーを取り付け、ドライブシャフトを取り外す。

専用工具

：ケースプーラー (07SMC-0010001)



ドライブシャフト

◇ドライブシャフト側にベアリングが残った場合、市販のベアリングプーラーを使用し取り外す。



ベアリングプーラー

ベアリング

ドライブシャフト

◇トランスミッションケースからファイナルギアシャフト、カウンターシャフト、カウンターギアを取り外す。



カウンターギア

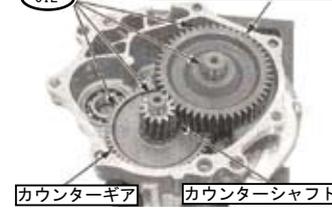
ファイナルギアシャフト

カウンターシャフト

◇キットのカウンターギアのスプラインに合わせて、カウンターシャフトを取り付け、トランスミッションケースに取り付ける。

◇ファイナルギアシャフトを取り付ける。

※各ギアとベアリング部にエンジンオイルを塗布する事。



OIL

ファイナルギアシャフト

カウンターギア カウンターシャフト

◇キットのドライブシャフトをL. クランクケースのベアリング部に差し込み専用工具を使用し、ドライブシャフトを取り付ける。

専用工具

：アッセンブリカラー

(07965-GM00100)

：アッセンブリカラー

アタッチメント

(07965-GM00200)

：アッセンブリシャフト

(07965-GM00300)

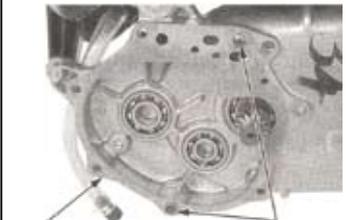


アッセンブリカラーアタッチメント

アッセンブリカラー

アッセンブリシャフト

◇L. クランクケースにロックピン2本とキットのガスケットを取り付ける。

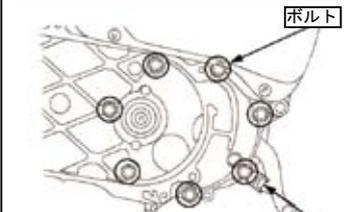


ガスケット

ロックピン

◇チューブクランプとトランスミッションケースボルト7本を取り付け締め付ける。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
ボルト
トルク：12N・m (1.2kgf・m)

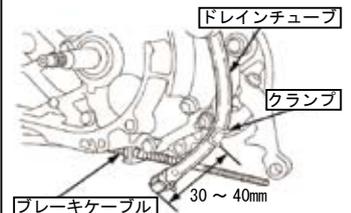


ボルト

クランプ

◇ドレインプラグが図のようにクランプから30～40mmの位置になるように、クランクケースプリーザードレインチューブをクランプに取り付ける。

◇リアブレーキをトランスミッションケースに取り付ける。



ドレインチューブ

クランプ

ブレーキケーブル 30～40mm

◇トランスミッションケースプリーザーチューブをエアクリーナーケースに取り付ける。



プリーザーチューブ

◇オイルチェックボルトを外し、ボルト穴の下端までオイルを注入する。

◇オイルチェックボルトを取り付け、締め付ける。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
オイルチェックボルト
トルク：13N・m (1.3kgf・m)

推奨オイル
ホンダウルトラ U 10W-30

又は

API 分類 SJ 級 SAE 規格 10W-30

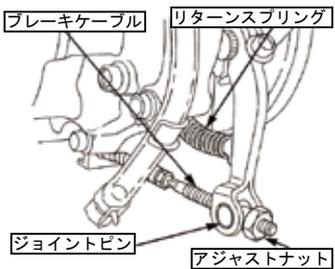
オイルチェックボルト



シーリングワッシャ

ボルト穴下端(油面)

◇ジョイントピンをブレーキアームに取り付け、ブレーキケーブルをジョイントピンに通してアジャストナットを取り付ける。

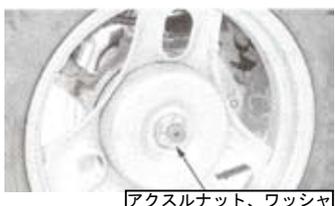


◇リアホイールを取り付け、ワッシャを取り付ける。

◇アクスルナットのネジ部と座面にオイルを塗布し、ナットを取り付け締め付ける。

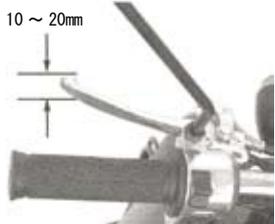
※ブレーキドラム内面及びブレーキライニングを脱脂して取り付ける事。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
ナット
トルク：118N・m (12.0kgf・m)



◇リアブレーキのアジャストナットを回し、リアブレーキの調整をする。

◇L. ブレーキレバー先端で遊びを確認する。
遊び：10～20mm



◇ドライブベルトをドライブプリーに取り付け、ドリブプリーの溝を広げドライブベルトを取り付ける。

◇クラッチ / ドリブプリー ASSY. をドライブシャフトに取り付ける。



◇クラッチアウターとナットを取り付け、ユニバーサルホルダーを使用し、ナットを締め付ける。

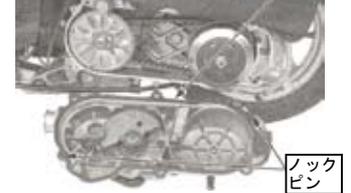
※クラッチアウター内面及びクラッチライニングを脱脂して取り付ける事。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
ナット
トルク：39N・m (4.0kgf・m)



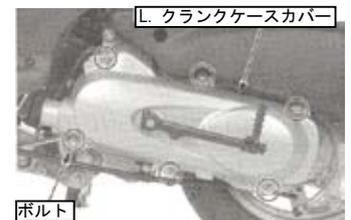
◇シールラバーをL. クランクケースカバーの溝に取り付ける。

◇ノックピン2本を取り付ける。



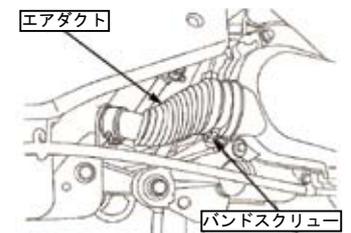
◇L. クランクケースカバーを取り付けボルト6本を対角に数回に分けて締め付ける。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
ボルト
トルク：10N・m (1.0kgf・m)



◇エアダクトをL. カバーに取り付け、バンドスクリューを図のように下に向け締め付ける。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
バンドスクリュー
トルク：2N・m (0.2kgf・m)



二次空気供給パイプの取り付け

◇シリンダーヘッドにガスケットとパイプをボルト2本で取り付ける。

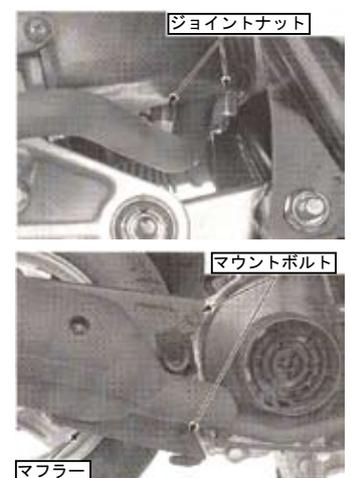
▲注意：必ず規定トルクを守る事。
ボルト
トルク：10N・m (1.0kgf・m)



エキゾーストマフラーの取り付け

◇シリンダーヘッドのスタッドボルトにエキゾーストマフラーのフランジを差し込み、位置を合わせる。

◇エキゾーストマフラーのフランジ側をナット2個で、マフラーステータをボルト2本でまず仮止めする。



◇ナット2個を本締めし、ボルト2本を本締めする。

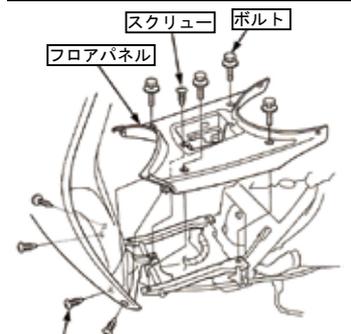
▲注意：必ず規定トルクを守る事。
ナット
トルク：10N・m (1.0kgf・m)
ボルト
トルク：26N・m (2.7kgf・m)

フロアパネルの取り付け

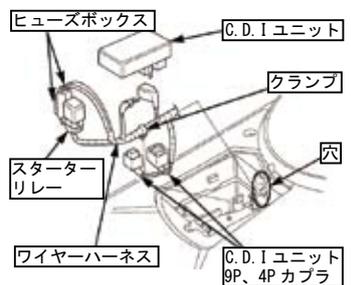
◇フロアパネルの穴にワイヤーハーネスやヒューズボックスを通し、フロアパネルを車体にはめ込む。

◇フレーム側にボルト4本とスクリュー1本、レッグシールド側にスクリュー4本で取り付ける。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
スクリュー
トルク：2N・m (0.2kgf・m)
ボルト
トルク：10N・m (1.0kgf・m)



◇スターターリレーやC.D.Iユニットのカブラを接続し、フロアパネルにはめ込む。

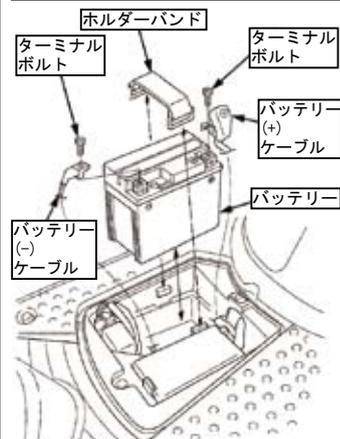


バッテリーの取り付け

◇メインスイッチがOFFか確認する。

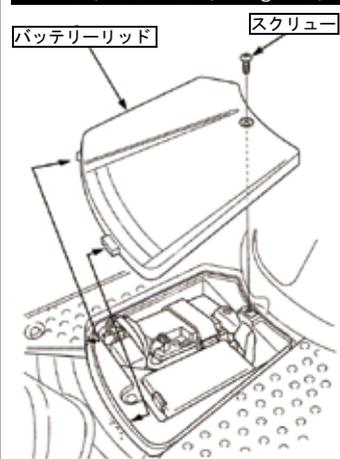
◇バッテリーをフロアパネルに入れ、ホルダーバンドで固定する。
バッテリーのプラス側にプラスケーブルをボルトで取り付ける。
バッテリーのマイナス側にマイナスケーブルをボルトで取り付ける。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
ボルト
トルク：14N・m (1.4kgf・m)



◇フロアパネルにバッテリーリッドの前部を先に差し込み、はめ込む。
スクリュー1本を取り付ける。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
スクリュー
トルク：2N・m (0.2kgf・m)



ボディーカバーの取り付け

◇ボディーカバーを少し左右に広げ、車体に被せる。
この際、配線の白色カブラを接続する。

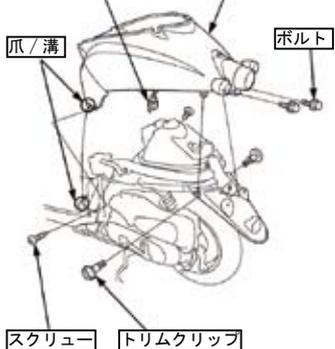


■取り付け要領 ※特に記載の無い細部の取り付け方法や規定トルクにつきましては、純正サービスマニュアルを参照して下さい。

- ◇ボディーカバーの前部をフロアパネルの溝にしっかりとはめ込む。
- ◇ボディーカバー後部のリアキャリア取り付け穴とリアフェンダー取り付け穴を、フレームのそれぞれのボス部にはめ込む。
- ◇スクリュー2本、ボルト2本、トリムクリップ2個を取り付ける。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
 スクリュー
 トルク：2N・m (0.2kgf・m)
 ボルト
 トルク：10N・m (1.0kgf・m)

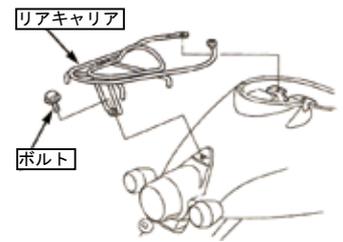
〔白〕カブラ フレームボディーカバー



※トリムクリップは中央部を上げておき、取り付けてから中央部を押してロックさせる。

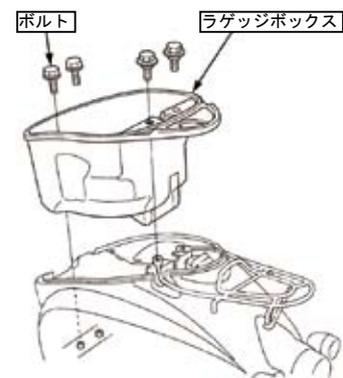


- ◇リアキャリアをボルト1本で仮止めする。



- ◇ラゲッジボックスの後部の取り付け穴2箇所をリアキャリアの取り付け穴に合わせ、ボルト4本で取り付ける。リアキャリアのボルト1本を本締めする。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
 ボルト
 トルク：10N・m (1.0kgf・m)



●走行前の注意

使用燃料について

- ◇燃料タンクにレギュラーガソリンが残っている場合は、必ずハイオクタン価ガソリンと入れ替える。

各部の点検

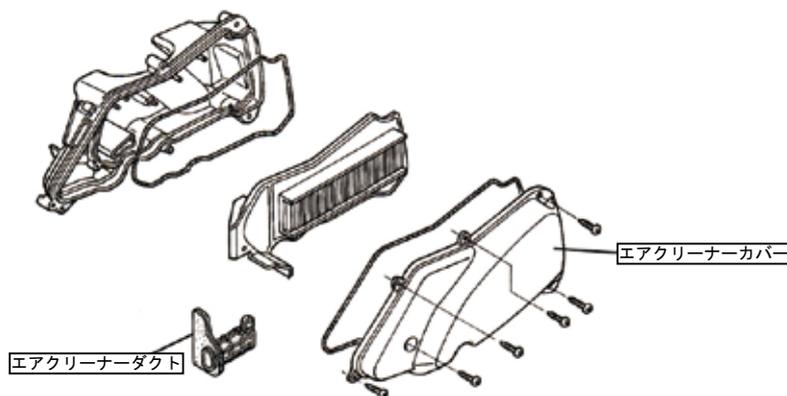
- ◇各部を点検し、ネジやナット等の緩みが無いか確認する。
- ◇エンジンオイルが規定量入っているか確認して下さい。
- ◇風通しが良く、安全な場所で十分注意してエンジンを始動し暖気運転させる。
- ◇エンジンからの異音や、各ガスケット部からのオイルもれが無いか点検する。
- ◇エンジンを切り、充分冷えた後で各部を点検し、ネジやナット等の緩みが無いか再度点検する。

補足

(Today CV キャブレター)

走行中急激にスロットルを開けた時、息つき症状が出る場合は、エアクリーナーケースよりエアクリーナーカバーを取り外し、カバー裏側に付いているエアクリーナーダクトを取り外して下さい。

吸入空気量が増大し症状が改善されます。



キャブレターセッティング要領

- ・キャブレターがエンジンに適合していない時のエンジンに現れる不調の原因は、混合気が濃すぎるか薄すぎるかの2つの原因に絞られます。
- ・エンジンに現れる不調の現象は次の通りです。

混合気が濃すぎる時	混合気が薄すぎる時
<ul style="list-style-type: none">・爆発音が重い感じで断続する。・チョークを作動すると、より調子が悪くなる。・エンジンが暖機すると調子が悪くなる。・クリーナーを外すと調子が良くなる。・排気ガスが濃い。(黒い)・プラグが黒くくすぶる。	<ul style="list-style-type: none">・エンジンがオーバーヒート気味になる。・チョークを作動すると、調子が良くなる。・加速が悪い。(息付きをおこす)・回転変動があり、力がない。・プラグが白く焼ける。

※キャブレターのセッティングは暖機後に行い、走行確認を行って下さい。又、プラグは適正な熱価の物をご使用下さい。
※エンジン回転後、スロットル開度等により、どの範囲でエンジンが不調になるかを考慮し、下記の要領でセッティングして下さい。

○メインジェット（スロットル開度 3/4-4/4）

- ・この開度での混合比は、ジェットの番数を変えることにより調整出来ます。番数を上げると混合気が濃くなります。
- ・仕様等を考慮の上、最高回転数（最高速度）の得られる物を選んで下さい。

○スロージェット（調整前にまずパイロットスクリューを調整して下さい。）

- ・パイロットスクリューの戻し量 3.0 回転以上の場合、スロージェットを小さくして下さい。
- ・パイロットスクリューが全閉になる場合は、スロージェットを大きくして下さい。
スロージェットはアイドルリングから低速運転時に、エンジン回転数がスムーズに立ち上がるか否かを確認します。
- ・回転上昇に谷が出来る場合、スロージェットが小さ過ぎます。(アイドル回転時)
- ・排気が濃く排気音が重い場合、スロージェットが大き過ぎます。(アイドル回転時)
- ・スロージェット交換時には、パイロットスクリューの再調整が必要です。

○パイロットスクリュー

パイロットスクリューはスロー系の空気流量を調整します。(アイドルリング時)

- ・パイロットスクリューを右に回す→混合気が濃くなる。
- ・パイロットスクリューを左に回す→混合気が薄くなる。

標準戻し回転数（1.5 回転）に合わせ、左右に 1/4-1/2 回転ずつ回しエンジン回転数が最も高くなる位置に調整します。

アイドルストップスクリューで安定したアイドル回転まで下げ、もう一度パイロットスクリューで最も回転数が高くなる位置に調整します。

●気圧、気温、湿度によるセッティングへの影響

- ・高地等で気圧が下がると空気密度が下がり、キャブレターへ吸入される空気量が減少します。この為、低地で調整されたキャブレターは混合気が濃くなります。
- ・非常に気温の低い天候下では、空気密度が上がる為、キャブレターの混合気は薄くなります。
- ・雨天の場合は湿度が上がる為、空気密度が下がりキャブレターの混合気は濃くなります。